



ふれあい



オーロラ 土井宏太郎画

【基本理念】

高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

- 目次 -

わかりやすい胸部X線画像の時代	副院長 佐々木康夫 ……2
ボランティアひまわり設立15周年に寄せて	副院長 佐熊 勉 ……3
「ひまわり」15周年に思うこと	ひまわり代表 竹花 昭子 ……3
事務局の紹介	事務局長 千葉 雅弘 ……4
腰痛のはなし	整形外科長 松谷 重恒 ……5
身体も軽く、心も軽く	リハビリテーション科 地館 美雪 ……5
新しく起動開始するリニアック	放射線治療科長 松岡 祥介 ……6
絵画の寄贈を受けて	総務課長 佐藤 明 ……6
患者満足度調査について	看護次長 及川 一枝 ……7
盛岡さんさ踊りを終えて	消化器外科医長 井上 宰 ……8
編集後記	広報委員長 島岡 理 ……8

【行動指針】

- 1 良質な医療の提供
- 2 優れた医療人の育成
- 3 地域医療機関への診療支援
- 4 救急医療の充実
- 5 災害医療の体制整備
- 6 臨床研修体制の充実
- 7 健全で効率的な病院経営

※ 広報誌「ふれあい」は1,700部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

わかりやすい胸部 X 線画像の時代

副院長・中央放射線部長 佐々木 康夫

胸部単純 X 線写真は簡便に低被曝で撮影できることから患者負担も少なく、病気の発見から治療効果判定まで広く利用されています。しかし、わずかな病変の診断がわかりにくいため敬遠する向きも多く、それが、「何でも CT 撮影」をしてしまう要因の一つになっていると思われます。おかげで？、当院の CT の件数は岩手医科大学よりもずっと多く、ダントツ一位です。

胸部 X 線写真の検出媒体がフィルムからデジタルに推移しても進歩したのは、画像保管効率の向上

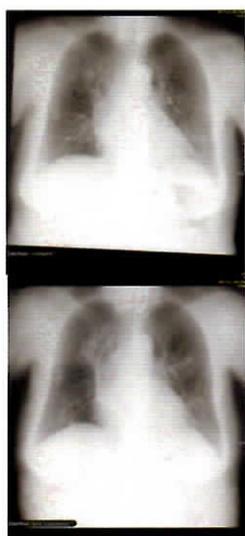


図 1



入院患者のポータブル画像 (BS) を用いた TS 画像 黒い陰影が増悪、白い陰影が改善した陰影

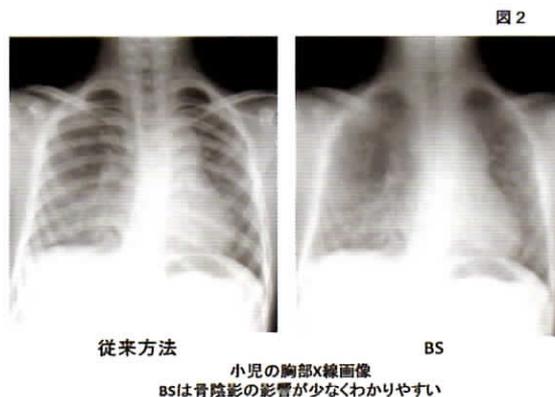
と病変の検出の向上とネットワーク化くらいで、病変の検出率の向上は得られていませんでした。しかし、ここ数年のデジタル画像処理技術進歩によって、胸部単純 X 線撮影が不得手としていた「小さいもの」「淡いもの」もかなり良好に検出されるようになって来ています。代表的な技術には①ダイナミックレンジ圧縮、②マルチ周波数処理、③経時的差分画像、④仮想グリッド、⑤エネルギーサブトラクション法や骨除去画像などがあります。今回は、これらのいずれもが臨床的な有用性の高い技術ですが、この度当院に導入される、TS、BS の画像処理ソフトについて以下に紹介させていただきます。

経時的差分画像 (TS: Temporal Subtraction) は病変コントラストを明瞭にするためにはきわめて有用性が高い技術です。TS は同一患者の現在画像から過去画像を減じて、両者に共通する解剖学的構造を相殺することで、ある時間経過内に変化した病変のコントラストが強調されます。今回当院に導入される ClearRead-Compare は、シカゴ大学で開発された新技術で、胸部 X 線画像同士の差分ではなく、骨除去画像 (BS: Bone Suppression) 同士の差分画像法です。この方法は使用する画像に骨陰影がないため、従来法よりも腫瘍のコントラストが高く描出されることが自験例でもわかっています。

この TS に使用する骨除去画像、すなわち BS は、通常の胸部 X 線画像のみならず、病棟のポータブル撮影にも適応が可能であるので、ポータブル撮影や小児などの骨陰影が読影の妨げになる画像診断に有用性がきわめて高いことも次第に明らかになって来ています。

以上、ご紹介したように、胸部単純 X 線画像は、様々な画像処理技術を応用すれば、臨床的に大切な技術です。

当院での TS、BS の運用開始は本年末を予定していますのでご期待下さい。



従来方法

BS

小児の胸部 X 線画像
BS は骨陰影の影響が少なくわかりやすい

ボランティアひまわり設立 15 周年に寄せて

副院長・ボランティア委員会 佐熊 勉

ボランティアひまわりが 10 月で設立 15 周年を迎えます。心よりお祝いを申し上げます。

35 名前後の会員の方々が、それぞれ外来案内班、小児病棟班、おはなしのへや班、環境図書班、病棟支援班、医学情報プラザひまわり図書室班に分かれて日常的に活動されています。また、バザー、七夕コンサート、クリスマスコンサートなどの行事、自己研鑽のための研修会・講習会や、学生のボランティア研修の受け入れなどを行なっています。

このような幅広い活動が全く自発的な意志から始まり、15 年という長い年月にわたって続けられていることは中央病院の関係者が皆敬意と感謝を寄せているところです。入院した知人は病棟のひまわり文庫に慰められ、また、外来通院の知人は患者さんに寄り添うオレンジ色のエプロン姿の人達の対応に感心していました。

15 年前に比べると病院の様子も大分変わってきました。当時 20 日を越えていた平均在院日数が現在は 12 日前後と短くなり、また社会の変化と呼応するように高齢の患者さんや介助を必要とされる患者さんが増えている印象があります。15 年前にボランティアひまわりが発足したときにはなかったような悩みや困難を感じることもあるかも知れません。患者さんにとってより良い医療環境を整えて行けるように、病院はボランティアひまわりの皆さんの意見に耳を傾け、さらに相互理解を深めて行ければと願っております。



これからもよろしく願いいたします。

「ひまわり」15 周年記念に思うこと

ボランティアひまわり代表 竹花 昭子

はじめに、私どもの活動に対して 15 年間、ご援助ご協力くださった多くの皆様にお礼を申しあげます。活動の陰には、たくさんの図書のご寄附、患者さまに差し上げる美しい絵を送って下さる方と私どもにポストカードの書き方の指導して下さいる先生…10 年以上も継続されています。どんなに療養されている方々が慰められていることでしょうか。バザーには多くの果物、野菜をいただきます。活動の資金となっております。また日本病院ボランティア協会、全国患者図書協会、その他多くの病院ボランティアの方々にご指導をしていただきながらの 15 年間でした。

医療の半分は「心」であると何かで読みました。手術室や ICU の医療処置は勿論病院の大きな使命です。しかし 病む方が病院の玄関にいらした時から医療の始まりと思っています。毎日外来案内の活動はそこから始まります。

小児科でのお子たちのかかわり、お母さんとかかわり、患者さまに、少しの時間のかかわりとその時の笑顔……。院内いたる所の図書、そして患者さまとご家族に医療情報をとの目的である図書室、院内の植物と写真・絵の展示、至る所に「ひまわり」が関わっています。

「ひまわり」の仲間は決して声高々に自分たちの活動を話すことなく、何も求めず、衒いもなく行っています。

まだまだ、病院ボランティアについて一般の方々には認識されていないように感じます。高齢化社会を迎えた今、このような活動が多くなることを望んでいます。私たちも安心して医療を受けられる病院を…そう思いながらの活動をしています。



事務局の紹介

事務局長 千葉 雅弘

事務局は、医師をはじめ看護やその他の職種、院内のスタッフが円滑に業務を進められるよう、いわゆる「縁の下
の力持ち」として、日々皆さんの業務のサポートを行っています。病院の中では目立たない存在ではありますが、当
院における収入の確保をはじめ、種々の物品調達や経営分析等を行い、病院の経営を支える重要な部門であります。

組織としては、総務課、医事経営課、業務企画室の3課室で構成されています。

以下、各課室を紹介します。

【総務課】

総務課は、病院における費用に関する管理部門として、職員への種々のサポートをはじめ、院内における施設管理
や医療器械や物品の調達等を担当し、病院運営が円滑に進むよう努めています。

《最近のトピックス》

院内の和式トイレの洋式化を昨年度と本年度の2ヶ年に渡り実施しています。昨年度からの工事は6月に
終了しました。本年度の工事は10月に入札を行い、11月から工事を開始し、年度内には終了する予定です。
このことにより、院内のトイレの洋式化率は80%になります。今後とも、院内の環境整備に努めて参りま
す。

【医事経営課】

医事経営課は病院の収入に関する管理部門として、診療報酬の総括や施設基準等の届出、診療契約等を担当し収入
の確保に努めるほか、カルテの質の管理やがん登録等を担当し、診療における質の向上にも努めています。

《最近のトピックス》

「院内案内図が分かりづらい」の声を受けて、「患者さんに分かりやすい案内図」をモットーに平成26年
度に1年をかけて「手作り案内図」を4月から1階、2階の外来フロアに掲示しました。今後も病院利用者
のサービス向上に努めて参ります。

【業務企画室】

業務企画室は、各係等はありませんがそれぞれの担当が、病院の経営分析・改善をはじめ、臨床研修、救急（災害）
医療、院内広報（年報、ホームページ含む）等、病院運営における種々の企画立案業務を担当するとともに、県立病
院医学会や県内各地への地域医療支援等（へき地支援含む）の業務を担当し県立病院のセンター病院としての役割発
揮に向けたサポートに努めています。

特にも学会関係の企画では、今年度の日本医療マネジメント学会東北地方会学術集会、来年度の日本病院学会と2
ヶ年に渡り大きな学会を当院が担当することになります。院内の皆様の絶大なる協力により2つの学会とも成功させ
たいと思いますのでよろしくお願いいたします。

《最近のトピックス》

9/25に平成28年度臨床研修プログラムマッチングの中間公表がありました。当院の一位希望人数は、募
集定員19人に対して36人でした。これまでの各先生方の医学生見学時の対応等が今回の結果に結びついた
のではないのでしょうか。まだ最終結果ではありませんが、今後ともよろしくお願いいたします。

腰痛のはなし

整形外科長 松谷 重恒

日本国内にはおよそ 2800 万人の腰痛患者がいると推計されています。日本での自覚症状の状況、有訴者率も男性では腰痛が第 1 位、女性では肩こりについて腰痛が 2 位となっており、その治療費や痛みに伴う就業困難に対する保障などの経済損失は、世界各国で社会問題となっています。

腰痛は、痛みの原因が特定できる特異的腰痛と、原因が特定できない非特異的腰痛に分けられ、非特異的腰痛が約 8 割を占めています。特異的腰痛の三大要因は、椎体の骨折、骨転移を含む悪性腫瘍、脊椎の感染症ですが、見逃してはならないものとして大動脈瘤などの血管由来、腎・尿路結石や婦人科、消化器疾患などの内臓由来などがあり、なかには器質的な疾患がない場合に心因性の腰痛も挙げられ、慢性の腰痛で悩む方に抗不安薬が有効な例もあります。

治療は原因が特定できる場合はその疾患の治療を行い、明らかな原因がみられない場合には痛みに対する治療をおこなうのが基本方針です。腰痛の大きな原因として、腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアなどの脊椎由来の腰痛がありますが、薬物療法や運動療法、局所麻酔剤を注射するブロックなどの保存療法で症状の改善が得られず、歩行障害ほか生活に支障をきたす場合には手術療法が必要となることがあります。著しい下肢の痺れや脱力、排泄障害を伴う場合には病状が悪化していることがあり注意が必要です。また近年の社会の高齢化により骨粗鬆症患者が増加しており、骨の脆弱化から脊椎の骨折を起こすと神経の圧迫症状を伴うことがあるため、骨折予防を目的に骨粗鬆症の治療も重要です。

身体も軽く、心も軽く

～腰痛のリハビリとは？～

リハビリテーション科理学療法士 地舘 美雪

腰を良くするポイント

1. 体を柔らかくする
2. 筋力をつける
3. 歩き方を身につける

※これらを続けることが大切です。

1. 柔軟体操

(1) 腰からお尻の柔軟体操



あぐらで体を前へ倒す

(2) ネコのポーズ

へそを見て
背中を丸める天井を見て
背中を反らす

2. 筋力エクササイズ

(1) 足の複合運動

寝て空間に字を書く
(馬・名前・数字)

(2) お尻の筋力アップ

四つ這いで片方の足を
天井に向かって上げる

3. キレイな歩き方

- ① 片方の足を 1 歩後ろに引く。
- ② 軽く胸を張る。
- ③ そのままの格好で歩き出す。
- ④ 直線上を歩くつもりで。

2000 歩で身につきます！



新しく起動開始するリニアック

放射線治療科 松岡祥介

岩手県立中央病院では平成 27 年 9 月 1 日より新しい放射線治療装置の稼働を開始しました。これは最新式の外部照射装置（リニアック、体の外から放射線を照射する装置、Varian 社製、TrueBeam）で、東北で 2 番目に導入されたものです。

放射線は日本では原爆、原発事故の影響もあるためか悪い印象がありますが、医療ではなくてはならないものです。日本では、欧米より少ないものの、4 人に 1 人のがん患者さんが治癒、延命、または症状軽減を目的に放射線治療を受けています。ほぼ全身のがん病巣を対象にでき、患者さんの負担が少なく、様々な適応があります。がん患者、高齢者が増加している中、改めて重要視されています。

放射線治療の歴史では、その発展のほとんどは機器の進歩によるものといえます。現在、いわゆるピンポイント照射と呼ばれる定位照射や、がん病巣の立体的形状に正確に照射する IMRT（強度変調放射線治療）、そして呼吸移動対策照射といった高精度放射線治療が行われていますが、この装置はこれらの治療を今までよりも効率的に行うことができます。より鮮明な放射線治療用画像（CT など）の撮影、患者さんの位置、姿勢の正確な自動補正、呼吸運動のモニターを利用した照射などが行え、また、定位照射ではごく短時間で照射を終えることができます。これらの機能を駆使してがん病巣に局限した照射ができ、より多くの患者さんに対して、より少ない副作用で、より多くのがん病巣を治すことが可能となります。



現在は種々の調整をしながらの運用ですが、今後、この装置を十分に活用し、岩手県のがん治療に貢献したいと思っております。

絵画の寄贈を受けて

総務課長 佐藤 明

このたび、当院では日本画家の土井宏太郎様から絵画の寄贈をいただきました。土井様は当院を受診していらっしゃるようですが、同じように受診されている患者の皆様にも少しでも励ましになっていただければ、とのお気持ちから寄贈をいただきました。

土井宏太郎様は、昭和 39 年に岩手大学特設美術科をご卒業され、宮古水産高校の教諭を経て、株式会社 IBC 岩手放送に入社されました。報道部でニュース番組の制作に携わり、「おはよういわて」や「ニュースエコー」などを手掛けられ、ディレクターを経て 50 歳の時に報道部長の職にてご退職されました。

日本画は 45 歳の時に独学で学び描き始め、46 歳から 48 歳まで河北美術展に出品し、毎回、宮城県知事賞など多数受賞されました。現在、公益社団法人日展、東京岩手美術会を発表の場としてご活躍中です。

今回寄贈していただいた「オーロラ」（出展時の題は「極光」）は日展で入賞された作品です。この作品を描く際には、アメリカのアラスカ州アンカレッジへ飛行機で移動し、そこからフェアバンクス、さらにチャタニカという小さな村へ移動し、1 週間滞在して描いたとのことでした。

今回、9 月 1 日（火）午後 3 時から中央待合ホールにおきまして、土井宏太郎様への感謝状贈呈式と絵画のお披露目を執り行いました。

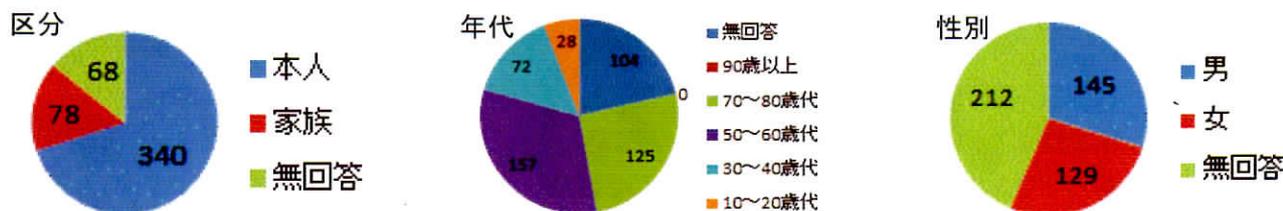
患者さんにおかれましては少しでも入院生活における癒しとして、そして職員一同にとっても忙しい勤務の間にほっと一息をつける存在として、皆で大切にしていきたいと思っております。



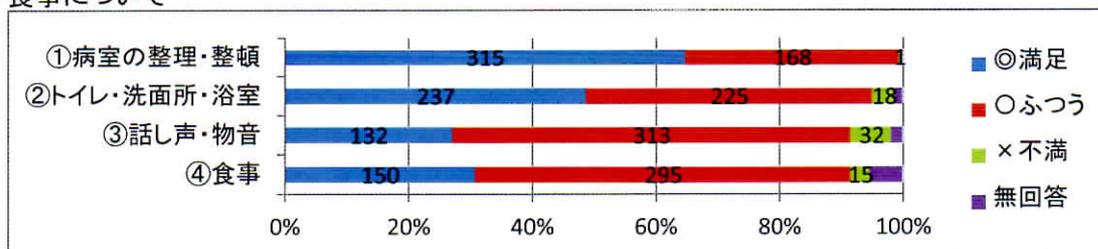
H27年度 アンケートによる入院患者さんの満足度調査結果

医療の質向上委員会では、平成27年6月1日～30日に退院時アンケート(退院患者: 1384名)を実施しました。アンケートにご協力いただいた患者さん・ご家族は486人(昨年度より99人増)でした。ご協力ありがとうございました。

1. アンケート回答患者さんの特徴



2. 環境・食事について



3. 職員の接遇についての結果

1) アンケートの質問内容

- ①身だしなみは、好感がもてましたか ②挨拶・言葉遣いは丁寧でしたか ③説明は分かりやすかったですか
④お待たせしないようにしていましたか ⑤質問しやすく、優しい雰囲気でしたか ⑥プライバシーの配慮をしていましたか

2) 職種毎の結果

- ①医師…回答者の約90%がふつう以上の回答であった。①～⑥全項目に対して不満が数名あった
②看護師…回答者の約90%がふつう以上の回答であった。②～⑥に対して不満が数名あった
③薬剤師・栄養士・リハビリ・事務…不満の回答はなかった

4. 意見欄の件数

記入件数: 267件

感謝: 満足: 約180件

不満: 約65件

(感謝と不満の両方を記入していた場合は不満の件数とした)

その他: 22件

5. 意見(不満)の内容→H26年度と同様5つのカテゴリーにまとめてみました

<p>■騒音 足音を静かにしてほしい 同室者の夜中のラジオ、イヤホンをつけるよう説明をお願いしたい 同室者の携帯電話の話し声、配慮にかけない。面会者の人数制限と声のトーンなど配慮の説明がほしい。</p>
<p>■設備 【病室】 部屋が暑い、空調が少し寒い。 網戸は閉めておいてほしい、虫が入る。 家族控室を増やしてほしい。 駐車料金は、手術日だけでも110円にしてほしい エレベーターの待ち時間が長い テレビはBSも見れると良い 【トイレ】 旧式トイレを改造してほしい 身障者トイレの汚れがあった。 トイレの壁の汚れが気になった。 トイレが汚い、臭いが気になった。 便座は温められると良い</p>
<p>■接遇 医師が病室に来るときは、余裕を持ってきてほしい。 白衣の前をはだけていた。 看護師の大きな声が気になった。 言葉遣いが雑だと思う。 挨拶がない人がいる。 担当看護師のネーム表示が様々、姓名を言わない看護師もいる 午後14時からの検査なのに、朝から絶食は子供は不機嫌になる。 朝食の時間を遅くするなど工夫と説明が必要 カーテンを勝手に開けて入ってくる、一声かけてカーテンを開けてほしい 入院中、何度も部屋が変わり、物が見当たらず不安になった。 患者の物も管理に気をつけてほしい 治療中の大勢の話し声、笑い声が絶えず聞こえていた。 今、何をやっているのか説明があれば、安心と納得が行く リハビリがいつ来るかわからない時があった レントゲン技師の対応が悪い(出入りの誘導ない、声が小さい)</p>
<p>■掃除 清掃の方、風邪をひいている様子(咳・くしゃみ)でとても気になった</p>
<p>■食事 食事がまずい。 ご飯が少し硬すぎる。 アレルギーの食品が入っていた事があった</p>

*その他にも貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後もお気づきの点がありましたらお知らせください。

